

すだちの簡易な中期貯蔵技術の確立

ねらい

神山町は、県下のすだちの貯蔵産地であるが、地球温暖化による夏季の異常高温、干ばつや秋季の長雨等により、短期貯蔵において黄変果や腐敗果等の品質低下が問題になっている。また、高齢化による労力不足から貯蔵すだちの出荷量が減少し、露地物への出荷が集中する傾向がみられる。

そこで、収穫後半（9月中下旬）の露地物で出荷される果実を簡易に貯蔵できる技術が求められている。

活動地域・対象

神山町 すだち農家

普及活動の目標

硝酸カルシウムを施用することで、腐敗果・黄変果・ヤケ果が少なく、健全果が多い傾向であったことから、収穫後半（9月中下旬）の露地物で出荷される果実を簡易に中間貯蔵できる技術を確認する。

目標に向けた活動概要

1. 試験実施のための打合せ（7/27）
 - ・ 昨年の予備試験の結果は、収穫適期の果実を使用した。
 - ・ 今年の試験の収穫日は、9月20日～30日の果実を用いる。
 - ・ 貯蔵容器（スチロール）は、密度違いによる効果を確認する。
 - ・ スチロール貯蔵は、1ヶ所に集めて1℃貯蔵を行う。
 - ・ 果実調査は、2回実施する。
2. 現地確認（7/29）

A氏



硝酸カルシウム無施用区



硝酸カルシウム施用区

B氏



硝酸カルシウム無施用区



硝酸カルシウム施用区

C氏



硝酸カルシウム無施用区



硝酸カルシウム施用区



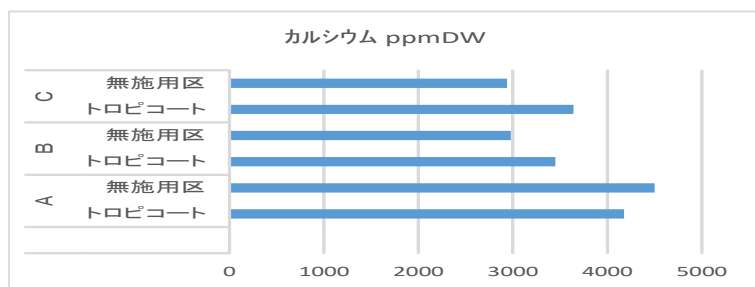
1℃で貯蔵する冷蔵庫



密度の違うスチロール

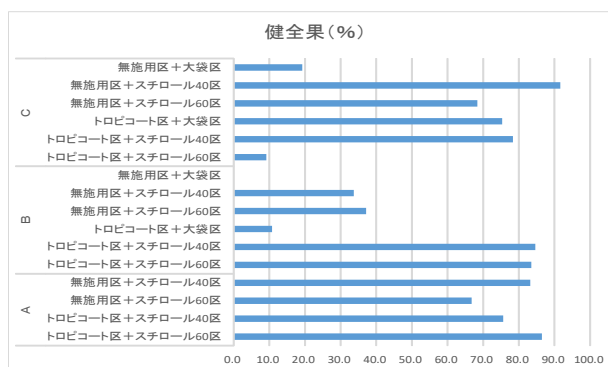
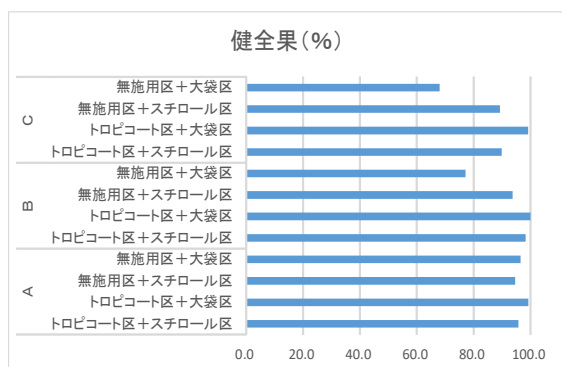
普及活動の成果

1. 収穫前の果皮におけるカルシウム成分量（9月21日）



関係者による検討会（2月24日）

2. 硝酸カルシウム及び貯蔵方法の違いが貯蔵1ヶ月及び2ヶ月後の健全果に及ぼす影響 10月26日調査 11月25日調査



- ・貯蔵1ヶ月後の調査では、硝酸カルシウムを収穫2ヶ月前・収穫1ヶ月前に施用したA・B農家で、健全果の割合が高くなった。しかし、C農家は収穫7日前の施用したことから、スチロール区で冷蔵ヤケの障害が多くなった。
- ・貯蔵2ヶ月後の調査では、収穫1ヶ月前に施用したB農家の果実をスチロール貯蔵した区で健全果の割合が高くなった。また、硝酸カルシウム無施用の大袋区で黄変果が多くなった。

用語説明 簡易な中期貯蔵技術：収穫後半の果実を10月～12月に出荷する技術

今後の発展方向

施用時期や施用量の違いが貯蔵性に影響を及ぼしていることが明らかとなった。貯蔵性の高かった生産者の事例を参考に検証を進める。スチロールに違いが見られないことから、耐久性の高い容器を使用し、腐敗果や貯蔵ヤケは今後の課題となった。

関係者からの声

実証展示ほの結果を検討するための検討会を開催したところ、貯蔵性の高かった生産者の事例を参考に検討したいとの意見から、検証による簡易な中期貯蔵の確立を目指す。

高度技術支援課 連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922